

令和2年度 雲南地域保健医療対策会議

日 時：令和3年3月25日（木）

19：00～21：00

場 所：三刀屋農村環境改善センター

開会あいさつ（雲南保健所 片岡 所長）

コロナの一年だった。保健所でも患者発生に備えて対応していた。ワクチン接種の体制整備については、これから順次進めていく。このような状況の中でも、5疾病・5事業・在宅医療を強化できたのは皆の蔓延防止対策の賜物と考えている。

保健医療計画雲南圏域編の中間見直しについては、時点修正が主な修正点で、施策の方向性にはあまり手を加えていない。重要業績評価指標の推移をみて進行管理をしていきたい。これだけの関係者が一同に集まっているので、高所大所からの意見を一言ずついただければと思う。

確認事項（雲南保健所 総務保健部 小塚 部長）

(1)新委員の紹介(8名)

- | | |
|---------------------|------------------|
| ・雲南市 | 副市長 吉山 治 様 |
| ・奥出雲町 | 副町長 藤原 努 様 |
| ・飯南町 | (任期が4月からのため代理出席) |
| ・雲南広域連合雲南消防本部 | 消防長 赤名 馨 様 |
| ・島根県薬剤師会雲南支部 | 代表 伊藤 健 様 |
| ・島根県看護協会雲南支部 | 支部長 井上 泉 様 |
| ・雲南地区栄養士会 | 会長 須山 直子 様 |
| ・雲南地域介護サービス事業管理者連絡会 | 会長 福島 宏芳 様 |
| ・雲南地域介護支援専門員協会 | 会長 中津 光二 様 |

(2)委員長の選出について

- ・互選により雲南市副市長吉山委員を委員長として選出

(3)会議の公開について

- ・昨年度から、基本的に、地域医療構想調整会議は全県統一して公開扱いとすることとなった。従来から、雲南圏域は、会議自体は公開していたが、資料・議事録等についても、県HPにて公表することとなった。

（雲南保健所 総務保健部 小塚 部長）

本会議の設置要綱第5条第2号に基づき、議事進行を委員長にお願いする。

委員長あいさつ（雲南市 吉山 副市長）

コロナで一年が終わろうとしている。このような対面協議の機会は少なかったが、今回は地域医療の現場の関係者が一堂に会している。有意義な会議となるように積極的な発言をお願いする。

議 事

1. 保健医療計画の進行管理について

- (1)資料1-1、1-2により説明（雲南保健所 医事・難病支援課 上野 医療専門員）

(2)資料1－3を参考に取り組みの方向性、考え方について各団体より報告

雲南市立病院 西 院長

コロナに振り回された一年だった。ようやく正常に戻りつつある。雲南圏域の医療を担うために取り組みを進めていく。

町立奥出雲病院 鈴木 院長

ここ数年で病床をダイナミックに変えてきた。急性期を減らして回復期、慢性期、介護医療院へと転換を行ってきた。将来に向けて、転換は完了したと考えている。4月から在宅医療に注力していく。

飯南町立飯南病院 角田 院長

これまで地域のニーズに病院として答えてきた。町内の開業医が2019年で閉院となり開業医がいない自治体となるため、病院としてプライマリーケアの機能を守り、また救急医療に重点を置いていこうと考えている。48床の小さな規模ではあるが、必要とされるよう取り組みを進めていく。

平成記念病院 陶山 院長

病床については現状維持。医療と福祉の連携や往診に注力していく。コロナの状況が長期化して神経質になっているところはあるが、感染対策として、施設整備で接触感染対策などに取り組んでいる。

奥出雲コスモ病院 今岡 院長

精神科単科病院であり、地域医療構想では少し外れているが、本日の国会で「埼玉県では病床が不足しているのになぜ病床を減らすのか」という質問があった。都会とは異なる状況ではあるが、地域医療の支援をしたいと考えている。

雲南医師会 永瀬 会長

雲南圏域は医療過疎地であり、開業医の高齢化、後継者問題などもある。コロナへの対応もあるが、コロナ以外の医療も、学校医も、在宅医療もある。ケアマネを含む多職種がタイアップしないと対応できない。ワクチンについても、なかなか届かなかったり、個別接種が必要な人への対応など、課題は多い。

島根県薬剤師会雲南支部 伊藤 代表

薬局は調剤業務だけでなく、健康サポート機能も持たないといけないと考えている。在宅にも注力して取り組んでいる。

島根県看護協会雲南支部 井上 支部長

多職種連携で地域包括ケアの構築に注力している。また、研修会を開催しての研鑽も行っている。看護師の状況として、開業医の高齢化もあるが、看護師も高齢化している。また、医療系の職種希望者を増やすため中学校、高校への説明会を行っているが、最近は小学校へのアプローチも行っている。県外流出せずに地元に残って働いてもらえることを目的に取り組んでいる。災害支援ナースの登録も行っていて、行政、福祉、医療の連携ができるよう取り組みを進めている。

雲南地区栄養士会 須山 会長

コロナでweb研修が中心となった。食事は重要な問題であり、過食による生活習慣病予防、低栄養予防等の課題に対して、皆が健康に過ごせるようにそれぞれの職場で研鑽を行っている。

雲南広域連合雲南消防本部 赤名 消防長

救急医療の関係機関との連携において、受け入れ体制、教育体制等ご協力いただいている。心肺蘇生法の講習を積極的に展開している。救急救命士は現在42人であるが、アドレナリン投与、気管挿管等の高度な医療行為も医師の指示を受けながら行っている。資格取得後の実習も行っている。生命を守るためにこれからも養成等取り組んでいく。

雲南圏域健康長寿しまね推進会議 加納 会長

健康長寿島根推進会議では、健康寿命延伸のため36団体が連携している。健康づくりを進め、健康寿命を延伸するために活動している。健康寿命延伸については、令和2年度から健康寿命延伸プロジェクトがスタートした。雲南圏域は平均寿命、健康寿命ともに高いが、さらなる健康寿命延伸のために取り組みを進めていく。

保険者協議会健康保険組合連合会島根連合会 乙社 常任理事

保険者に共通する取り組みである健康づくり、予防への取り組みを進めている。保険者としての意見を保険者協議会島根県国民健康保険団体連合会から願う。

保険者協議会島根県国民健康保険団体連合会 青木 事務局次長

保険者の立場で医療費適正化の取り組みを進めている。その上で医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携は不可欠であり、医師との意見交換を行っている。しかし、今年度はコロナの影響であまりできていない。ジェネリック医薬品の使用促進について、島根県は他県と比較して使用割合が高いが、若年層で伸び悩んでいるという課題もある。特定健診、特定保健指導などについても、医師会、歯科医師会、薬剤師会の協力が不可欠であるため、引き続き連携して取り組みを行っていく。

雲南広域連合 長谷川 事務局長

第8期介護保険事業計画の策定にあたり、審議会を通して成案となった。人材確保についての提案をいただいた。介護保険料は7期の据え置きと考えている。健康づくり、予防について、市町と連携して取り組みを進めていく。

雲南地域介護サービス事業管理者連絡会 福島 会長

30以上の介護サービス事業管理者の連絡会。情報共有、研修会の場に連絡会として参画している。保健医療計画との関わりは重要だが、推進する体制にはなっていない。医療介護連携のあり方についても検討している。

雲南地域介護支援専門員協会 中津 会長

医療介護連携についての研修を企画していたが、今年度は難しい状況だった。コロナの影響で地域での療養、看取りが増えている。ケアマネとしての支援が何かを考えて取り組みを進めていく。ケアマネ不足の状況が続いているが、一人のケアマネが担当できる人数は限られているので、なかなか退院できないケースや、在宅生活

に支障が出ているケースもある。また、ケアマネの働き方についてのアンケートを分析し、ケアマネのあり方、働き方について考えていきたい。医療介護連携の取り組みにつなげたい。

雲南市社会福祉協議会 杉原 事務局長

社会福祉法 109 条に基づく社会福祉を推進する団体。社会福祉協議会としての役割を果たしたい。関係機関との連携が不可欠であり、強化していきたい。

がんばれ雲南病院市民の会 矢壁 事務局長

今年度はコロナで活動ができないかと思っていた。ボランティアさんと話していると「コロナがこわいので病院に行きたくない」という声があった。このままではいけないと思い、雲南市立病院の感染症認定看護師によるコロナの正しい知識の普及啓発の講演を開催した。島根大学医学部教授の講演も同じテーマで開催した。コロナについての普及啓発が進めることができたと考えている。

雲南病院を支えよう市民の会 久我 会長

がんばれ雲南病院市民の会と連携して取り組みを行っているが、雲南病院を支えよう市民の会としてはあまり活動できていない。会の経緯としては、雲南市立病院となる以前に、医師不足の問題があり、加茂、大東で立ち上がった。当時は危機的な状況だったが、会としては病院へのかかり方について啓発活動を行った。今、素晴らしい病院となっている。そろそろ引こうかとも考えているが、医師が減っている状況もあるため、病院ではなく、医療を支える会にしようかと考えている。

奥出雲町 健康福祉課 杠 課長

取り組みについては資料参照。今年度はコロナ禍で活動することが難しく、歯がゆい思いだった。その中でも、医療と介護のネットワーク立ち上げた。全ての介護事業者がネットワークには入っている。ネットワークでは、実効性ある取り組みを行っている。介護人材確保については、介護事業者同士が協働して取り組んでいる。健康づくりについては、老人クラブの会長に元気プラン 21 に対する目標を作ってもらった。関係団体と連携して取り組みを進めていく。

飯南町 保健福祉課 小玉 課長

今年度はコロナの影響で活動が難しかった。地域医療、医療介護連携については、地域包括ケア推進局を中心に活動している。対面できない中、福祉事業者全てにタブレット端末を配布し、タブレット端末を活用して顔の見える会議を行っている。地域ケア会議も遠隔で行った。この状況下でも SNS も活用し保健福祉できる限りのことを行ってきた。子育て世代包括支援センターを立ち上げた。高齢者の包括支援センターも入っており、全世代の総合相談窓口となった。今までは会ってつながっていたが、コロナをきっかけにつながるといふことの意味を考えさせられた。これからは新たな形のつながりを構築しながら取り組みを進めていく。

雲南市 吉山 副市長

先日議会が終わったが、コロナに関する質問が多かった。ワクチンについては自治体の実施主体だが、担当部署だけでなく病院関係者と体制整備の取り組みを進めている。その中で、医療提供体制の存在の大きさや日頃からの連携ができていること

について実感している。また、コロナ禍での大きな課題として情報共有があるが、経験の積み重ねが大事だと思っている。住民の力を最大限活用し、関係機関の連携を進めながら取り組みを進めていく。

2. 島根県保健医療計画 雲南圏域編 中間見直しについて

(1) 資料2-1～2-5により説明

(医事・難病支援課 吉木 課長、上野 医療専門員、健康増進課 内田 課長、衛生指導課 古割 課長、地域包括ケア推進スタッフ 中島 主幹)

(2) 質疑、応答及び会議当日保留とした質問への回答

町立奥出雲病院 鈴木 院長

- ・がん（がん医療）について（資料2-3 P7）
 - ④がん患者へのリハビリテーションについては当院でも行っている。
- （対応）記載を修正する。
- （修正後の記載）
 - ④ 雲南市立病院及び奥出雲病院ではがん治療による疼痛、筋力低下、障がいの改善を目的にがん患者リハビリテーションが実施されており、広く圏域で適切なリハビリテーションが受けられる体制づくりを進めます。

飯南町立飯南病院 角田 院長

- ・地域医療（地域医療を担う医師の養成）について（資料2-4 P6）
 - 「総合診療医」の養成についての記述があるが、「総合診療医」なのか「病院総合診療医」なのか。何かに記載されている言葉なのか。
- （対応）整理する。
- （回答）病院における総合診療医という意味での記載
- ・精神疾患（児童・思春期精神疾患、発達障がい）について（資料2-3 P37）
 - 新旧対照表によると、見直し案に現行計画の記載が削除されている箇所がある
- （対応）事務的なミス。記載を残す。

平成記念病院 陶山 院長

- ・重要業績評価指標（がん②健診受診率の向上 ほか）について（資料2-2）
 - 健診の年齢的な上限はあるのか。
 - 高齢者も含めると健診受診が困難なこともあり受診率は下がるのではないか。
 - それを考えるとかかりつけ医が受診勧奨を行うのが効率的なのではないか。
- （対応）上限はないと認識している。ご意見については、ご意見として頂戴する。

奥出雲コスモ病院 今岡 院長

- ・全般について
 - 統計数値の時点がバラバラであり、策定時から状況は変わっているのにその時点での数値が挙がっている箇所もある。
- （対応）できるだけ最新のデータとしたい。

島根県薬剤師会雲南支部 伊藤 代表

- ・重要業績評価指標（がん①喫煙率の低減）について（資料2-2）
 - 現状値は「35.9%」で中間目標の「25%」すら達成されていないが

最終的な目標値が「10%」に引き上げられているのは何故なのか。

他の計画の目標数値と合わせているのか

- (対応) 保健医療計画の策定当初から計画最終年の目標を「10%」としていた。
理由は健康増進計画の目標値に合わせているため。

保険者協議会健康保険組合連合会島根連合会 乙社 常任理事

- ・がん（患者支援）について（資料2-3 P9）

「働き盛りは就労支援」とあるが具体的にはどのような内容となるのか。

事業主に対しても協力を求めるに過ぎない。

具体的に分かりやすく記載してもらえると良いと思う。

- (対応) 具体的な表現に修正する。

(修正後の記載)

- ⑤ がん患者のライフステージに応じた課題を把握し、小児・AYA 世代は治療と学業の両立支援、働き盛り世代は医療機関、ハローワーク、産業保健支援総合センター等と連携して、相談窓口の周知や治療と仕事を両立できる環境整備に取り組みます。高齢世代は意思決定支援などの取組を進めていきます。

(委員長 雲南市 吉山 副市長)

島根県保健医療計画 雲南圏域編の中間見直しについて、承認でよろしいでしょうか。(拍手) それでは承認ということで、この議題について終了といたします。

3. 報告事項

(1) 地域医療連携推進法人について

(雲南市立病院 石原 事務部長)

資料3-1により説明

(2) 町立奥出雲病院の分娩の取り扱いについて

(町立奥出雲病院 中西 事務長)

資料3-2により説明

(3) 町立奥出雲病院の介護医療院開設について

(町立奥出雲病院 中西 事務長)

資料3-3により説明

(4) 「上手な医療のかかり方アワード」受賞について

(がんばれ雲南病院市民の会 矢壁 事務局長)

資料3-4により説明

閉会あいさつ (雲南保健所 片岡 所長)

コロナ禍という特別な状況であり、災害支援ナースの話も出たが、災害もコロナを前提とした対応となる。有事の際、保健所は雲南市立病院のDMATと連携をとって対応したいと考えている。

また、病院に対してはコロナの対応についてお願いしているが、コロナ以外の医療にも影響を与えている。コロナ禍で医療を守るために関係機関の連携が大事。在宅医療についても、医療介護連携が重要と考えている。フレイル予防も含め、個人

に頼るだけでなく、多職種で予防に取り組むことで病院の負担を減らすことができ
ればと思う。さらなる健康寿命の延伸につながればと考えている。